

都道府県名 愛媛県

学校の概要 (平成 15 年 4 月現在)

松山市立道後小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	0	24	
児童数	113	117	114	129	134	124	0	731	

研究の概要

1. 研究主題

豊かなかかわりの中で、共に学ぶ子の育成
- 個に応じたきめ細かな指導を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数
(確かな学力についての個人差が大きい)

(2) 年次ごとの計画

平成
14
年
度

テーマ 豊かなかかわりの中で、共に学ぶ子の育成
- 個に応じたきめ細かな指導を通して -

仮説 (算数科の指導において)

- 外的な活動と思考とがうまくつながるように算数的活動を取り入れることで、子どもたちの考える力を伸ばすことができるであろう。
- 子どもたちが、各自の自力解決について情報交換したり、学び合ったりする場を充実させることによって、自分のよさに気付いたり、他の人のよさに学んだりすることができ、数学的なコミュニケーション能力を高めることができるであろう。
- 単元の目標分析と評価規準を明確にすることによって、一人一人に応じた適切な指導を行うことができるであろう。

研究内容・方法

- 研究主題についての共通理解と、研究推進計画の作成
- 算数科を中心とした研究・実践の推進
 - ・ 児童の実態把握と各学年の重点指導目標の設定
 - ・ 考える力を伸ばすための算数的活動の充実
 - ・ 数学的なコミュニケーション能力を高めるための指導の充実
 - ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫
 - ・ 学習や指導に生きる評価の工夫

平成
15
年
度

テーマ 豊かなかかわりの中で、共に学ぶ子の育成
- 個に応じたきめ細かな指導を通して -

仮説 (算数科の指導において)

- 外的な活動と思考とがうまくつながるように算数的活動を取り入れることで、子どもたちの考える力を伸ばすことができるであろう。

- 子どもたちが、各自の自力解決について情報交換したり、学び合ったりする場を充実させることによって、自分のよさに気付いたり、他の人のよさに学んだりすることができ、数学的なコミュニケーション能力を高めることができるであろう。
- 単元の目標分析と評価規準を明確にすることによって、一人一人に応じた適切な指導を行うことができるであろう。

研究内容・方法

- 算数科を中心とした研究・実践の深化と各教科等との関連の研究
 - ・ 考える力を伸ばすための算数的活動の一層の充実
 - ・ 数学的なコミュニケーション能力を高めるための指導の一層の充実
 - ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
 - ・ 学習や指導に生きる評価の工夫改善

平成
16
年度

テーマ 豊かなかかわりの中で、共に学ぶ子の育成
- 個に応じたきめ細かな指導を通して -

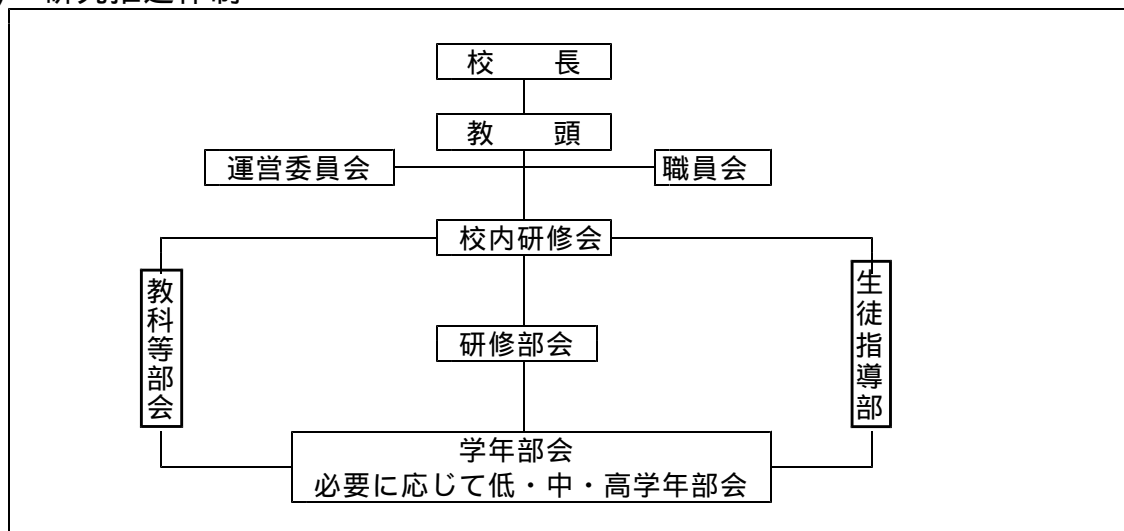
仮説（各教科等の指導において）

- 各教科等の特性を生かし、子ども一人一人が自分なりの考えをもち友達とかかわり合いながら学習を深める場を充実させることによって、学ぶ喜びを味わい、問題解決力や表現力を高めることができるであろう。

研究内容・方法

- 算数科を中心とした研究・実践の定着化
- 研究の成果を基にした他教科等への発展・関連の研究

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

成果

- 学習形態の工夫
 - 個人差が大きくなる6年生において、2クラスを3つに分ける少人数コース別学習をほぼ年間通して実施してきた。昨年度（1クラスを2つに分ける少人数コース別学習）とくらべ、より個に応じたきめ細かな指

導ができた。チャレンジコースでは発展的な学習を多く取り入れたり、じっくりコースでは補充的な学習を取り入れたりするなど、各コースの児童の実態をふまえた単元指導計画を作成することができた。自分にあった学習環境で存分に力を発揮する姿が見られるようになるなど、学習意欲の向上につながった。また、理解面だけでなく、発表力や表現力などのコミュニケーション能力育成の面でも効果的であった。

昨年度(6月)と今年度(5月)の比較 ~ 児童(6年生)の実態調査結果より ~

- ・ 算数の勉強が好きですか。

好き 73% 81%

- 数学的なコミュニケーション能力を高めるための集団思考の場の充実

自力解決の後に情報交換の場を設定したり全体の練り合いの場で自分の考えをかけたホワイトボードを活用したりするなど、昨年度の実践を続ける形で、集団思考の場の充実に力を入れてきた。数学的なコミュニケーション能力を育てていくためには低学年時からの系統性をもった指導が必要であるという昨年度の反省を踏まえ、今年度、新たに「学習過程における目指す児童像」を作成した。これをもとに共通理解を図りながら全校体制で指導に当たっており、自分の考えを進んで発表し合い考えを深めていこうとする学習態度や数学的なコミュニケーション能力が育ちつつある。

昨年度(6月)と今年度(5月)の比較 ~ 児童(6年生)の実態調査結果より ~

- ・ ノートに自分の考えを文章でかいたり、絵や図で表そうとしますか。

している 67% 82%

- ・ 算数の時間に進んで発表していますか。

している 38% 57%

- ・ 算数の時間に友達に自分の考えを説明できますか。

できる 47% 64%

- 指導と評価の一体化

- ・ 昨年度から、目標分析により、A・B・Cの具体的な評価規準を設定したり、A、C規準の児童に対する指導の手だてを明確にしたりしたことで、個に応じた適切な指導ができるようになってきた。今年度は、評価規準を抽象的な言葉ではなく、より具体的な子どもの姿で表現するようにしたことで、評価規準が実際の授業で使いやすいものとなり、子どもをより確かに見取ることができるようになってきた。

- ・ 授業の最後に学習感想を書かせ、「関心・意欲・態度」や「数学的な考え方」などの評価に生かすようにした。さらに、これを指導者が共通の視点で分析できるように「学習感想の見取りのものさし」を作成した。この5段階の見取りの視点は、子どもにとっては「目指すべき学びの変容の姿」であり、教師にとっては「指導の段階的な目安」となるものである。初めの頃は、「楽しかった」「よく分かった」といった抽象的な感想が多かったが、授業展開を工夫したり教師が適切なコメントを書いたりすることで、次第に学習内容だけでなく、共に学ぶ

ことの楽しさや自分の学び方にまで踏み込んだ感想が見られるようになってきた。その意味で、学習感想を生かした評価を充実させることが、そのまま授業改善につながったと考える。

学習感想の例 ～ 6年生児童～

- ・ ずっとなやんでいたけどM君がよく分かる納得のできることを言ってくれて、私になやんでいたことがすぐとけました。私もみんなに理解してもらえそうな発表をしたいなあと思いました。
- ・ だれかが発表すると、それをまた他のだれかがもっと分かりやすく工夫して発表する。みんなの意見を聞いていると、まちがえてもいい、だいじょうぶと思えて発表がたくさんできるようになりました。
- ・ 分数の大きさ比べの時に、みんなの意見がいろいろあってびっくりしました。算数は、答えは1つだけど考え方はたくさんあると改めて思いました。それから算数はごちゃごちゃ難しく考えるより簡単にすっきりとできる考え方を使うのがベストだと思いました。
- ・ 今、考えてみると考え込むことが算数で、考え込むことが算数の楽しいところなんだと思えます。
- ・ 新しい單元にはいると、どんなことをするのか楽しみになってきました。自分が知らないうちにどんどん算数が好きになっていました。

課題

- 2クラスを3つに分ける少人数コース別学習の効果を確認することができたが、今後、単元や学習内容、指導目的によって柔軟に学習形態を変えていくことも考えていきたい。
- 子どもを確かに見取り、適切な指導をするために、評価規準や学習感想を活用してきた。具体的な評価規準を作成することは大変な作業であるが、教師の共通理解を図るには不可欠である。また、学習感想をどのように見取り、指導に生かしていくかは、今後も具体的な実践を積み重ねながら検討していく必要がある。
- 算数における研究を他教科等の指導にどう生かし広げていくか検討し、実践につなげていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

児童の実態調査（全学年）

- 算数科学習に対する関心・意欲面や表現力・問題解決能力等をつかむ資料とするために質問紙法により行う。6月と12月に行い、その変容をみた。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 授業公開 平成15年10月31日
第36回中国・四国算数・数学教育研究大会 会場校 参加者 約540名
- HP作成 (<http://www.matsuyama-edu.ed.jp/~s.dougo>)

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下 1 3 ~ 1 8 学級 2 5 学級以上	7 ~ 1 2 学級 1 9 ~ 2 4 学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T.Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】		有	無	